



# つなぐ

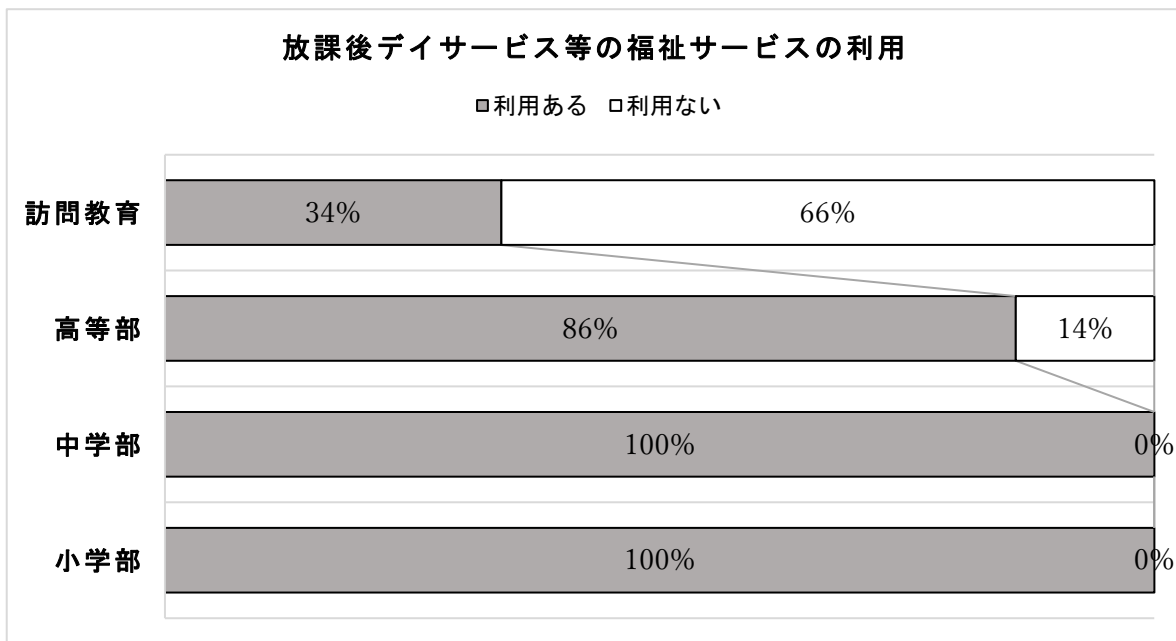
静岡県立東部特別支援学校  
地域連携課保護者だより  
令和6年3月1日発行  
第3号 清水 恵美子

地域連携課では、学校と本人、保護者の皆様、そして地域の事業所や医療機関をつなぐものとして個別の教育支援計画の作成と活用を推進しています。子どもたちの健康状態や環境の整備、自立に向けての取り組みや社会参加等、皆様の御意見をうかがいながら進めていくため、今年度も福祉サービス等の利用についてのアンケートに御協力いただき、ありがとうございました。アンケートの結果を以下に報告させていただきます。

## 放課後等デイサービス、福祉サービスの利用状況について

おかげさまで66件（自宅からの通学者、回収率90%）の回答を得ることができました（昨年度の回収率は77%）。

全体で59名（88%）の方が福祉サービスを「利用している」と回答しました。この数年来の調査で、毎年ほぼ80~90%の児童生徒が福祉サービスを利用していることが分かります。

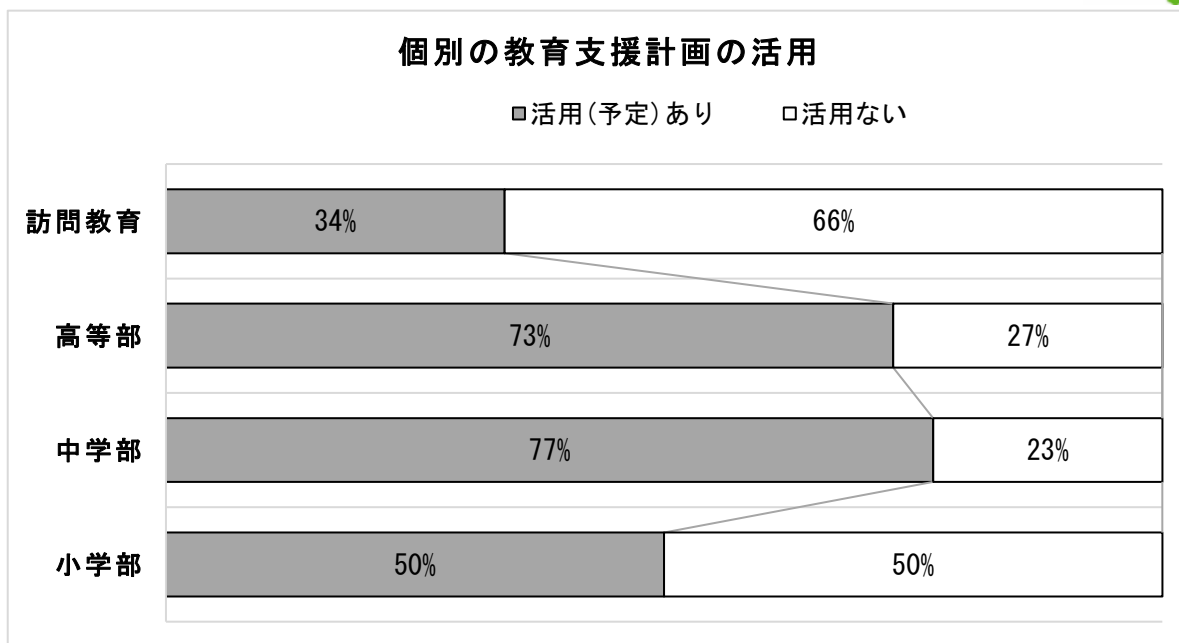


（自宅からの通学児童生徒分回収）



小学部児童でも福祉サービスの利用が100%です。就学前から市町の福祉課とつながり、児童発達支援や相談支援事業所との関係作りが既に始まっていたことがうかがえます。利用の内訳としては、ほとんどの児童生徒が利用している放課後等デイサービス以外にも、訪問看護や入浴、送迎サービス、リハビリなどを利用しているとのことでした。学校以外に、御家庭が様々な事業所と関わりがあることが分かります。

# 個別の教育支援計画の活用状況について



活用状況については中学部や高等部が多く、次いで小学部となっています。福祉サービス事業所での契約や更新を経験すると、個別の教育支援計画を共有できる機会が増えていきます。内訳としては、「放課後等ディサービスや訪問看護の事業所、リハビリ利用などの際に、情報として提供した」との回答が多かったです。小学部では、「福祉サービスを利用し始める時に使用した」という感想も多く、今後活用機会が増えていくと予想されます。活用については、「こどものことを分かりやすくしてくれてある」「継続して使いたい」「服薬やアレルギーのことも書き足したい」「発災時のことも記入できるといい」「更新して随時アップデートしていくことが大事」という御意見もありました。また、「医療機関や市町行政も同じ書式が望ましい」という内容もありました。関係機関と連携して今後に生かしていきたいです。



一方で「活用したことがない」と回答した方も21名いました。「活用の仕方が分からない」がそのうちの70%、「必要を感じない」が30%でした。福祉サービスの利用が多い本校ですので、教育支援計画とは意識せずとも使用しているかもしれませんし、同様の内容を口頭で伝え合っているかもしれません。上述の利点を生かして今後の活用につなげていただけたら、と考えています。



個別の教育支援計画は、学校と保護者の方々が協働で策定し活用することで、子どもを中心に時間や取り巻く環境をつなげていくための「つなぐ」役割をもっています。学校のみならず、相談支援事業所や放課後等ディサービスにも活用の意義についての働きかけを継続していこうと思います。

また、西側昇降口の掲示コーナーでは、様々な福祉サービス事業や相談会等の紹介を随時行っています。教育相談室前ホワイトボードも御覧いただき、パンフレットなども御自由にお持ちください。

